

漫画作品の翻訳に現れる不自然な表現について ～『賭ケグルイ』の韓国語翻訳版を例に～

李 京 揆
(別府大学文学部)

1. はじめに

1998年以前、韓国で日本語の漫画は「東京」を「ソウル」としたり登場人物の名前を韓国式に改名するなどのローカライズが必須であったが、1998年に韓国の「第一次日本大衆文化開放」政策よりローカライズは必須ではなくなった。以後、日本語の漫画が多数韓国で出版されたが、日本語の漫画は2022年現在でも読む人だけが読むマイナーな趣味である。

韓国人が日本の漫画を読まない理由は様々あるだろうが、筆者が最もよく聞いた理由の一つは「翻訳文体が嫌だから」ということだ。例えば、翻訳文体としてよく指摘されるものに「絶対」がある。「絶対」は韓国語でもよく使われる単語だが、肯定文によく使われる日本語に対して韓国語では主に否定文に使われる。例えば、日本語「絶対に約束する」を韓国語で直訳すると「절대로 약속 할게」になり、意味も通じ文法的に間違っただけでなく日本語を見慣れない人にとっては不自然に感じられる。この文を自然に翻訳した例は「꼭 약속 할게」である。

このような韓国語として不自然な文は、職業的なプロ翻訳者レベルではあまり見られないことであるが、アマチュア翻訳者も関わる漫画の翻訳などでは時々見られることだ。本論文では日本語の漫画『賭ケグルイ』¹⁾とその韓国語版を対照し、不自然な翻訳文や誤訳を指摘してみたい。そのことを通じ、より自然な翻訳ができるようになることで韓国での日本の漫画の読者層が増えることを期待する。

2. 先行研究

先行研究として、今井(2009)、木田(2019)が挙げられるが、前者は漫画作品を対象にしたも

のでなく、漫画作品を対象にする後者は役割語という限られた視点によるものである。今井(2009)は、『五体不満足』(乙武洋匡著)の韓国語版と日本語版を用いて誤訳の対照研究を行っている。今井(2009)は、逐語的な翻訳が誤訳の温床であると指摘し、韓国語で漢字を常用しないことから来る漢字語の誤訳(「漢字1字に着目しその意味を限定的に解釈したための誤訳や、1字ずつ分解、直訳したことによる誤り」)が目立つと述べている。

木田(2019)は、日本語の漫画3作品を用いて韓国語版と人称語の役割語の対照研究をしたものである。一人称、二人称ともに日本語の方が種類が多く、人称語によって示される登場人物のキャラクター性を韓国語で表現するのは難しいと結論づけている。

3. 韓国語翻訳版の不自然な表現や誤訳

3.1. 名詞の場合

①

「政財界の有力者の子女が多数通っている」

「정재계 유력인사들의 자녀가 다수 다니고 있는 곳이다.」

「有力者」が翻訳では「有力人士」になっている。人士は地位がある人を表す単語でもあり、有力とは意味が重なるので「有力者」「유력자」と翻訳するのが自然である。

②

「一発逆転」

「단발역전」

「一発逆転」が「単発逆転」と訳されている。これは単純な誤訳に見える。韓国語でも「単発逆転」と表記する場合はなく、「일발역전」と表記するのが正しい。

- ③ 「合図」 「대리」 「合図」が「代理」と誤訳されている。日本語版では「代理」キャラクターが「合図」と書かれた板を手に行っている。韓国語版でも絵は同じで「代理」は「대리」に、「合図」も「대리」と訳されていたので明らかに誤訳である。「合図」は「신호」と翻訳するのが正しい。
- ④ 「クラスの半分以上がサクラとなって敵対する中それを見抜き、逆にサクラを利用することで勝利してしまうなんて…」 「급우 절반 이상이 야바위꾼이 되어 적대하고 있는 가운데, 그걸 꿰뚫어보고 역으로 야바위꾼들을 이용해 승리를 거두다니…」 「サクラ」が「イカサマ賭博師」と訳されている。この作品での「サクラ」は詐欺に動員された人々を意味するが、韓国語版では「イカサマ賭博師」と訳されている。「야바위꾼」は「야바위」をする賭博師を意味する韓国語なので前者の「サクラ」は「사기에 동원 되어」と意識を、後者の「サクラ」は「사기꾼」または「サクラ」を省略して翻訳する方が自然である。
- ⑤ 「負け犬」 「루저」 「負け犬」が「루저 (Loser)」と訳されている。負け犬の意味を考えると誤訳でも不自然な翻訳でもない。しかし翻訳者が「負け犬」を英語の「Loser」と韓国語に表記したことは数年前韓国で流行語として「루저」が使われたからであると思う。しかし現在では使われない言葉であり「敗北者」を意味する「패배자」と翻訳する方が自然である。翻訳に流行語を用いることは流行っている時には自然に見えるだろうが、時間が経つと流行は終わるので流行語を翻訳に用いるのは抑制すべきである。
- ⑥ 「家畜認定」 「가축인증」 「家畜認定」が「家畜認証」と訳されている。単純な誤訳に見える。
- ⑦ 「トイメーカー」 「완구메이커」 「トイメーカー」が「玩具メーカー」と訳されている。意味の上では問題ないが韓国で「玩具」という言葉は日常的には使わないので、やや不自然に感じる。英語のToy makerをハングル表記にした「토이메이커」や「장난감 회사」と翻訳した方が自然である。
- ⑧ 「令嬢」 「영양」 「令嬢」を直訳した「영양」になっている。韓国語では「영양」よりは「令愛」「영애」が使われる場合が多いが、日常で使うことはない。「영양」や「영애」よりは「娘さん」を意味する「따님」と翻訳する方が自然である。特に現在では漢字教育の縮小によって「영양」「영애」よりは「따님」の方が理解もしやすいと思われる。
- ⑨ 「その名の通りデッキを2つ使用する神経衰弱です」 「말 그대로 카드를 2세트 사용하는 신경쇠약이요」 「デッキ」が「セット」と訳されている。単純な誤訳に見える。「말 그대로 텍 2개를 사용하는 신경쇠약이요」と翻訳する方が正しい。
- ⑩ 「じ…示談するしかない」 「하, 합의하는 수밖에 없어」 「示談」が「合意」と訳されている。「示談」という言葉は韓国では耳慣れない言葉なので「合意」と意識をしたと思う。このセリフは大負けを目の前にした登場人物が相手に対して勝負を無かったことにするために提案をしようとしている場面だ。故にこの場面ではお互いの意見が一致するという意味の「合意」よりはこれから議論するという意味の「協商」を使い「혀, 협상하는 수밖에

없어」と翻訳した方が自然である。

⑪

「今回磁石を使って同じことをやらせた」

「이번에 자기(磁氣)를 이용해 똑같은 짓을 한걸 거예요」

「二十四に入っていた『剣』を磁石の反発で飛ばしたんです」

「24에 꽂혀있던‘검’을 자석의 반발로 날려버린 거죠」

「磁石」が「磁氣」と訳されている。単純なミスだと思う。後の文が「二十四に入っていた『剣』を磁石の反発で飛ばしたんです」ということを考えると、前者を「磁石」、後者を「磁氣」と訳そうとしたのではないかと思われる。後者の原文も「磁石」とはなっているが、前者に「磁石」が出ているので後者の方で「磁氣の反発」と翻訳することも自然である。

故に前者を「이번에 자석을 이용해 똑같은 짓을 한걸 거예요」後者を「24에 꽂혀있던‘검’을 자석의 반발로 날려버린거죠」と翻訳する方が自然である。

⑫

「生徒会の容赦ない取り立ての話なんていくらかも聞くのに…」

「학생회의 인정사정없는 징수 애긴 수도 없이 들었는데...?」

「取り立て」が「徴収」と訳されている。不自然であるというほどの誤訳ではないが、「徴収」は税金などの公共機関が主体になり納める意味が強いので、債務関連の場面では「학생회의 인정사정없는 추심 애긴 수도 없이 들었는데...?」と翻訳する方が自然であると思う。

⑬

「借金10万・100万・1000万」

「빚10억, 100억, 1000억」

数の単位に誤訳がある。10万は10億、100万は100億、1000万は1000億になっているが主人公が背負っている借金の金額が億単位だという内容がよく登場するのでうっかりしたものと思われる。「빚100만, 1000만, 1억」と翻訳するのが正しい。

⑭

「4、10のマークです」

「10마크예요」

前の「4」が翻訳されてない。省略できる内容でもないので単純な誤訳だと見える。

⑮

「監視室に案内するから付いてきて」

「감사실로 안내할테니 따라가」

「監視室」が「監査室」と訳されている。誤訳だと見られるが、またキーボードの配置上「ト」と「|」はすぐ隣なので「감시실」を「감사실」と誤入力した可能性も十分にある。ここでは「감시실로 안내할테니 따라와」と翻訳するのが正しい。

⑯

「ファンクラブ会長」

「팬클럽회원」

「会長」が「会員」と訳されている。単純な誤訳だと見える。

⑰

「それがこの学園の流儀ではありませんか」

「그게 이 학교의 격식 아닌가요?」

「流儀」が「格式」と訳されている。単純な誤訳だと見える。「그게 이 학교의 방식 아닌가요?」「그게 이 학교의 룰 아닌가요?」などと意識するのが自然である。

⑱

「ギャンブルそのものの虜」

「갬블 그 자체의 노예」

「虜」が「奴隸」と訳されている。「虜」も「奴隸」もあることに心を奪われた人という意味を持っている。しかし「奴隸」にはあることをするためならば何でもするイメージがあるが、「虜」はそこまでではない。主人公のギャンブル狂のキャラクターを考えて「奴隸」と意識したと思うが、主人公が純粋にギャンブルを楽しむキャラクターだということを考えると直訳して「갬블 그 자체의 포로」と翻訳するか、よりわかりやすく翻訳すると「갬블 그 자체에 사로잡힌 녀석」と意識するのが自然であると思う。

⑱

「ブタ」

「허패」

「ブタ」が「虚牌」と訳されている。ポーカー用語で「ブタ」は役に出来ない手札を意味する。韓国語で「ブタ」に該当する単語は「ハイカード」または「トップカード」が一般的に使われていて次に「ノーペア」が使われる。「虚牌」という単語は韓国語に存在しない単語である。以前の巻では「ブタ」を「ノーペア」と翻訳をしているところを5巻から「虚牌」と翻訳していて疑問である。「하이카드」「탑카드」「노페어」と翻訳するのが自然である。また「8のハイカード」のように前に役の数字をつけて意識をすることもできる。

⑳

「選択権」

「선택지」

「選択権」が「選択肢」と訳されている。単純な誤訳だと見える。

㉑

「5分の待機時間後」

「5분인터벌(대기시간)후에」

「待機時間」が「インターバル(待機時間)」と訳されている。原文で「待機時間」に「インターバル」が振り仮名としてついていたので「インターバル(待機時間)」と訳したのであろう。意味に問題はないが、「インターバル」という単語は主にスポーツ界で使われていて「インターバルトレーニング」や「インターバルタイマー」など、主に接頭語として使われる。「インターバル」が単独で使われる場合は野球の試合以外ではあまり見られないので違和感がある。日常では「インターバル」に相当する「待機時間」が使われるので、たとえ振り仮名に「インターバル」と書かれていたとしても「待機時間」を用いて「5분 대기시간 후에」と翻訳するか「待つ」を用いて「5분 기다린 후에」と意識するのが自然であると思う。

㉒

「家督を継いだ貴様が学園に目をつけた」

「가독을 물려받은 네놈이 이 학교를 점찍었다」

「家督」を直訳した。韓国語でも「家督」は存在するが廃語扱いされていて時代劇でさえ見られない単語である。故に「家督」と翻訳するのは不自然で、「家長」を用いて「가장을 물려받은 네놈이 이 학교를 점찍었다」と翻訳するのが自然である。ただし「家長」という単語は家庭を代表するイメージが強いので一族をまとめる役をしている登場人物を考えて「当主」「家主」を用いることも考える必要がある。

㉓

「因縁があるのかと思っていたけど」

「무슨 악연이라도 있는줄 알았는데」

「因縁」が「悪縁」と訳されている。おそらく敵対している二人の登場人物を考えて「悪縁」と意識したと思う。しかし「인연이라도 있는줄 알았는데」と翻訳するのが自然である。

㉔

「そいつは実質『生徒会長選挙』敗退!」

「그 녀석은 실질적으로 '학생회장선거'에서 탈락!」

「敗退」が「脱落」と訳されている。意味上では問題はないが、「選挙戦」というギャンブルの結果によって選挙自体に立候補することも投票することもできなくなる状況を説明するには「脱落」はやや弱い感じを与える。ここでは「敗退」を直訳して「그 녀석은 실질적으로 '학생회장선거'에서 패퇴라는거지!」と翻訳するのが自然であると思う。

㉕

「票の獲得ペースは想像以上に早い」

「득표 페이스는 상상 이상으로 빨라」

「獲得」が「得票」と訳されている。おそらく選挙が行われている状況を考えて「得票」と訳したと思う。または「票の獲得」を略して「得票」と翻訳した可能性もある。しかしこの場面で行われている選挙は支持者に票を投票するのではなく、票を賭けたギャンブルのみで票が移動するという設定である。「得票」は支持者から票をもらう感じが強いので、票を勝ち取るという感じを生

かして「獲得」を直訳して「표의 획득 페이스는 상상 이상으로 빨라」と翻訳するのが自然であると思う。

②⑥

「40枚のボーダーはクリアできない」

「40년의 보더는 클리어 할 수 없다」

「ボーダー」を直訳した。しかし韓国語で「ボーダー」という形で使うことはない。国境でも「ボーダー」ではなく「国境線」と呼ぶ。だが「国境線」と翻訳するのも不自然すぎるので「境界」を用いて「40년의 경계는 클리어 할 수 없다」と翻訳するか、「基準」を用いて「40년의 기준은 클리어 할 수 없다」と意識するのが自然である。

②⑦

「外ウマ」

「소토우마」

外ウマの発音をそのままハングルに移した。「外ウマ」は麻雀のプレイヤー4人以外の人々が麻雀の順位を当てる賭博を意味する日本語だが、韓国語には「外ウマ」に対応する単語がないので「소토우마」と訳したのだろう。しかし「外ウマ」と似た意味を持つ「場外賭博」という言葉があるので、それを用いて「장외도박」と翻訳するのが自然であろう。

②⑧

「確かに君の行動は不可解」

「확실히 네 행동은 불가해해」

「不可解」の音読をそのまま韓国語に移した。韓国語で「不可解」という単語はあるけれど日常的に使われることもないので「不可解」の意味を表記する翻訳にするべきだと思う。したがって「확실히 네 행동은 이해 할 수 없어」と翻訳するのが自然である。

②⑨

「渡米」

「도미」

意味には問題ない。しかし、漢字の併記が必要といえるほどに見慣れない単語でもあるので「미국으로 건너감」と翻訳するのがよいと思われる。

③⑩

「付き合う義理もありませんしね」

「꼭 협조할 의무는 없으니까요」

「義理」が「義務」と訳されている。意味は似ているが「義務」が必ずしなければならないという強制力を持つ感じがある反面、「義理」は必ず守る必要はないという感じがある。また親友関係で義務付ける行為そのものが不自然であると思う。したがって「義理」を用いて「꼭 협조할 의무는 없으니까요」と翻訳するのが自然である。

③⑪

「ほんとマジ早くっ!!」

「진짜로, 레알, 빨리!!」

「マジ」が「레알」と訳されている。韓国語の「레알」は約12年前、あるインターネットコミュニティサイトで英語「Real」の発音を変化して「레알」と発音し始めたことで広がったネットスラングである。すでに述べた流行語とは違って今現在でも使われてはいるが、「레알」という形ではなく「ㄹㅇ」「ㄹㅇ루다가」「ㄹㅇㅋㅋ」など形が変わっている。しかしこのような単語を翻訳として出版することはできないので「레알」と訳したと思うが、すでに述べたように流行語は抑制するべきだと考えるので「本当」を意味する「정말」を用いて「진짜로, 정말, 빨리!!」と翻訳するのがいいだろう。

③⑫

「答え合わせと参りましょう」

「정답 비교에 들어가겠습니다」

原文にはない「比較」の意味の語が訳出されている。意識だと考えることもできるが、お互いの答えが正しいか答案と比較しながら確認することであれば「比較」を入れて翻訳することも不自然ではない。しかし、この場面での「答え合わせ」は、相手が食べた辛味の食べ物ほどの皿かを当てることであり、「比較」という単語が入ってよいところはない。したがって「정답 맞히기에 들어가겠습니다」と翻訳するのが自然である。

③⑬

「咀嚼の回数を数えていたんです」

「저작 횟수를 셉답니다」

「咀嚼」を直訳して意味上では問題ない。しかし、咀嚼は韓国で日常的に使われてない単語なので「咀嚼」の意味を用いて「씹는 횃수를 섯답니다」と翻訳するのが自然である。

③④

「裏表がないことはよく分かってる」

「표리부동하지 않다는건 잘 알고있다」

「裏表がない」が「表裏不同」と訳されている。意味の上では問題ないが韓国で漢字教育が縮小していることを考えると、漢語に翻訳すると読み手が理解できない可能性がある。また、「表裏不同＋ではない」と二重否定の構造は意味を混同することも十分にあり得る。また「表裏がない」という言葉に対応する言葉が韓国語にあるので、漢語に翻訳するよりは「겉과 속이 같다」と翻訳するのが自然である。

③⑤

「横や斜めから見てこそ凹凸がある」

「옆이나 대각선 쪽에서 봐야 비로소 그곳에 요철이 생겨나는거야」

「凹凸」が直訳されている。②⑨と同じ形式である。また「凹凸」は「올록볼록」という純化語もあり、カードに爪跡をつける場面から考えて「凹む」だけを用いて「옆이나 대각선 쪽에서 봐야 비로소 그곳에 오목한 부분이 생겨나는거야」と意識するのが自然である。

3.2. 動詞の場合

①

「近い内に誘われると思うから」

「머잖아 너도 초대받을 테니까」

「誘われる」が「招待される」になっている。大きな意味の差はないが「誘う」が軽く勧誘する感じであれば「招待する」はパーティーなどに呼ぶ時に使う堅い感じがある。そのため、ここでは「머잖아 너도 권유 받을테니까」と翻訳するのが自然である。なお主人公を特定して誘うことならば、「招待される」ことも不自然ではない。

②

「では次は…50枚をお願いします」

「그럼 다음은... 50개를 걸게요」

「お願いします」が「賭けます」と訳されている。お互いが同額を賭けるギャンブルでレートを50枚にしましょうと提案をしているので「賭けます」と意識するよりは「お願いします」を直訳するのが自然である。

③

「監視室に案内するから付いてきて」

「감사실로 안내할테니 따라가」

「付いてきて」が「付いていけ」と訳されている。単純な誤訳と見える。「감사실로 안내할테니 따라와」と翻訳するのが正しい。

④

「あたしの策を喝破し」

「내 계획을 갈파하고」

ここでは原文を直訳しており誤訳ではないが「喝破する」という単語が韓国語では見慣れないものであり不自然な翻訳と判断した。韓国での漢字教育は基礎的なレベルで行われていて、現在も漢字教育は縮小しているため読者の漢字能力を考えて翻訳する必要がある。見慣れていない「喝破する」よりは日常的に触れる「見抜く」「看破する」を用いて「내 계획을 간파하고」と翻訳する方が自然であると思う。

⑤

「学園がどうなっても知らないよん」

「학원이 어떻게 되든 책임 못져」

「知らない」が「責任負えない」と訳されている。前の文が学園の状況に関して言ったものなのでその状況は「知らない」＝「責任負えない」という意味で意識したと思う。誤訳ではないが話し手のキャラクターは「いたずらっ子」に近いので、その話し方を生かすためには「知らない」を意識するよりは直訳するのが自然だと思う。「학원이 어떻게 되든 난 아무것도 몰라」「학원이 어떻게 되어도 몰라」などとすべきである。

⑥

「人生は然るべき方に譲渡しましたよ」

「인생은 적당한 분께 양보했어요」

「譲渡しましたよ」が「譲歩しました」と訳されている。韓国語では「譲渡」と「譲歩」は両方とも譲る意味で似ているが「譲渡」には自分の

所有の物、例えば財産や不動産、ある権利など価値がある物を与える感じがある。韓国語では「讓歩」も自分の所有物を与える意味があるが、価値が低いか価値のない物を、また席を譲るなど自分の所有物以外に「讓歩」が使われる。この場面では賭け金として得た相手の人生に関する権利を他人に譲り渡すことなので「讓渡」を用いて「인생은 적당한 분께 양도했어요」と翻訳するのが自然である。

⑦

「指が落ちるか指を抜くかのチキンレース」
「손가락이 나가느냐, 손가락을 빼느냐가 걸린 치킨 레이스」

「指が落ちる」が「指が出る」と訳されている。韓国語で事故や衝撃で物や身体の一部が傷ついた場合、「나가다(出る)」を用いて「이가 나가다(歯が抜ける)」、「뼈가 나가다(骨が折れる)」などと表現する場面があるので「指が落ちる」を「손가락이 나가다(指が出る)」と訳したと思う。しかし「指が出る」という表現は一般的に使われない。指に傷がついた場合、一般的に使われる表現は「指が折れる」や「指が切り落とされる」であり、切られて血がでるくらいの傷でも「出る」という表現は使われない。この場面では「切る」を用いて「손가락이 잘리느냐, 손가락을 빼느냐가 걸린 치킨 레이스」と翻訳するのが自然であると思う。または直訳して「손가락이 떨어지느냐」と翻訳するのもよいだろう。

⑧

「試されちゃってるねえ」
「시험하고 있는거야」
「試されている」が「試している」と訳されている。単純な誤訳だと見える。

⑨

「『2』を出されたのはまずい」
「2'를 내놓으면 곤란해」
「出された」が「出せば」と訳されている。このセリフはすでに「2」を出した後の会話なので、「出せば」という仮定表現は不自然である。「2'를 낸것은 곤란해」と翻訳するのが自然である。

⑩

「何で脅すの？」
「뭘 두려워 하는거야?」
「脅す」が「恐れる」と訳されている。単純な誤訳だと見える

⑪

「私は私の持つ133票をすべて差し出そう」
「난 내가 가진 133표를 전부 바칠게」
「差し出す」が「捧げる」と訳されている。「捧げる」は相手を崇める場合に使われる。対等な立場である登場人物に使うには不自然であるため「差し出す」を用いて「난 내가 가진 133표를 전부 내놓지」と翻訳するのが自然である。

⑫

「主演女優賞有力候補に挙げられている」
「여우 주연상 유력 후보로 노미네이트 되었다」
「挙げられる」が「ノミネート」と訳されている。意味の上では問題ない。しかし韓国の国立国語院では2013年から「ノミネート」を「候補指名」と訳することにして、単語が定着するまでは併用または併記するようにしている。したがって「指名」を用いて「여우 주연상 유력 후보로 지명 되었다」と翻訳するのが自然である。

⑬

「手間を省きたいのです」
「수고를 덜어드리고 싶네요」
「省きたい」が「省いてあげたい」と訳されている。単純な誤訳だと見える。「수고를 덜고 싶네요」と翻訳するのが正しい。

⑭

「その程度で降りるとでも？」
「고작 그 정도로 강판이라도 할까 봐?」
「降りる」が「降板」と訳されている。「降板」を知っている人であれば意味の上では問題ないが、「降板」は野球関連以外で耳にする場合はほとんどないので不自然だと判断した。またこの場面で使われた「降りる」はギャンブルを諦める意味で使われている。今まで同じ場面で使われた「降りる」の翻訳は「死ぬ」「やめる」「諦める」などに訳されていたが、このセリフにだけ「降板」が使われた。前後の文脈から考えても「降

板」と翻訳する必要性は見られないので、今までと同じく上記した単語を用いて「고작 그 정도로 죽으라구요?」などと翻訳するのが自然である。

3.3. 形容詞の場合

①

「妙な噂があつてさ」

「기묘한 소문이 돌고 있는데」

「妙な」が「奇妙な」と訳されている。「奇妙」は物体の形や外観などが変な場合に使われる。

「妙」は形や動作が特異、また話の内容が変で、なんと表現するか困難な場合に使う。

例文を考えると「奇妙」は「霧が晴れると奇妙な島が現れた」、「妙」は「あの証言はちょっと妙なところがある」が挙げられる。

したがって「묘한 소문이 돌고 있는데」と翻訳する方が自然である。

②

「だってこのままでは何だか腹立たしいではありませんか」

「왜냐하면 이대로 놔두려니 웬지 속상해서요」

「腹立たしい」が「気が腐る」「気に障る」と訳されている。「腹立たしい」と「속상하다」は大きな意味の違いはなく誤訳であると言うほどではないが、この場面では「속상하다」と意識をするよりは「腹立たしい」を直訳した「화가나다」を用いて「왜냐하면 이대로라면 웬지 화가나지 않나요?」と翻訳する方が自然であると思う。ただ、この場面を正確に理解するためには該当するチャプター全体を読まなければならないが、長いので引用は省略する。

③

「重たいとか気持ち悪いと言われることもあったけど好きなものは仕方ない」

「부담스럽다 느니 징그럽다고 욕 먹을 때도 있었지만 좋은건 어쩔 수 없었다」

「重たい」が「負担だ」と訳されている。これは推測になるが、訳者は長い髪に関する場面で「あんたの髪が長すぎてちょっと負担感がある」ような意味で「負担だ」と訳したのではないかと思う。しかし、他人との会話ではなくて独り言を

していることを考えると「負担だ」よりは「重たい」を直訳して「무거워보인다」と翻訳するのが自然ではないかと思う。「무거워 보인다 라던가 징그럽다고 욕 먹을 때도 있었지만 좋은건 어쩔 수 없었다」。

3.4. 文脈の場合

①

「強いね相変わらず」

「세네, 여전히」

ただありのままに直訳をしただけの文である。しかし、日本語の語順のとおりでは単語の配置が不自然で「여전히 세네」「변함없이 강하네」のように「相変わらず強いね」と翻訳するのが自然である。

②

「私お腹すいちゃった」

「나도 배가 좀 출출한걸?」

日本語が平叙文で書かれているのに対して韓国語訳は疑問文になっている。前後の文脈から考えると独り言なので「나도 배가 좀 고프네」「나도 배가 좀 출출하네」と翻訳する方が正しい。

③

「どーするこのあと?」

「어떻게 할래? 이제」

①と同じ形式である。「이제 어떻게 할래?」と翻訳する方が自然である。

④

「嘘だろ?」

「농담이지?」

「嘘だろ?」が「冗談だろ?」と訳されている。日本語では「嘘だろ?」も「冗談だろ?」も意外さをあらわす表現として用いられる。韓国語の場合、「嘘だろ?」は文字どおり事実でないことを事実のように言うか、目の前の状況を否定したい時、信じがたい話を聞いた場合に使われる。「冗談だろ?」は明らかに相手が冗談を言っていて、話し手も聞き手も話していることが嘘であることを知っている場合に使われる。

例えば、次のような例文が挙げられる。

A. 「俺がさ軍隊で最前線で勤務していた頃の話だ

けど、ある日夜間警戒勤務をしていたが、ある北朝鮮軍人一人が警戒網をばれずに通過して鉄柵を超えて中隊本部まで来て帰順要請をしたことがあって大変だった。」

「え、嘘だろ？」

B. 「俺が軍隊で服役していた頃に、山から下りて来たイノシシ3匹と素手で戦い殴り殺したんだ」

「冗談だろ？」

この場面での「嘘だろ？」はギャンブルに勝った主人公に、イカサマがあることに気づいたのに何故大金を賭けたのかを聞いて、「あれはまったくの偶然です」と返事を聞いた状況である。主人公が冗談を言っていることもないし、「嘘だろ？」のすぐ後に「結局ただの偶然に1000万円を賭けたっていうのか？」とまた聞いていることから、ここでは「嘘だろ？」を直訳して「거짓말이지?」と翻訳するか、「장난이지?」と意識するのが自然である。

⑤

「生徒会から私への手紙が来たんですが」

「학생회에서 저한테 편지를 보냈는데요」

「生徒会から私に手紙を送ったんですが」と訳されている。また文が敬語になっているが、「저한테」はいわゆるため口なので「학생회로부터 저에게 편지가 왔는데요」と翻訳する方が自然である。

⑥

「私が結婚?するわけないでしょう」

「내가 결혼? 따윈 할 리 없잖아요」

直訳されているが原文ではため口なのが翻訳文では敬語になっている。また韓国語の文章の中に「?」があるのは不自然だ。文章を2つに分けるか「내가 결혼 따윈 할 리 없잖아?」と翻訳する方が自然である。

⑦

「飽きさせないですねこの学園は相変わらず」

「질리게 놔두는 법이 없네요. 이 학원은 여전히」

①や③と同じ形式である。またこの時点で主人公は今までは違う身分で学園生活をするこ

になる。身分が変わっても学園は何の変化もないということを表すために「相変わらず」を前に配置して「여전히 이 학원은 질리게 놔두는 법이 없네요」と翻訳する方が自然である。

⑧

「それならそうと早く言って下されば良かったのに」

「그럼 그렇다고 빨리 말씀하시지」

「良かったのに」が省略されている。誤訳だと見るべきか、吹き出しの関係上省略されたのかは不明だが「그럼 그렇다고 빨리 말씀하셨으면 좋았을것을」と翻訳するのがより自然である。

⑨

「眼球の裏側って見たことがない」

「안구의 뒤편은 본 적이 없네?」

原文は平叙文だが翻訳文は疑問文になっている。独り言を言っているのならば不自然ではないが、前後の文脈を見ると「考えてみれば私…」「眼球の裏側って見たことがない」「貴方の左目を3億で買うわ」となっており話している相手が明確に存在している。そのため「안구의 뒤편은 본 적이 없어」と翻訳するのが自然である。

⑩

「全当て狙いは裏を返せば全外しのリスクも隣り合わせ」

「전부 알아맞히기를 노리는건, 뒤집어보면 총알 전부 빗맞히기의 리스크와 인접해있다」

原文にはない単語「銃弾」が訳出されている。この場面で行われているギャンブルは、カードを当てて、当てた枚数の差だけ引き金を引くというものだ。おそらく訳者はギャンブルの内容に合わせて意識をしたと思われる。しかしギャンブルの内容はカードを当てることであり、銃の引き金を引くのは支払いの領域と見るべきだ。ギャンブルの内容を込めて意識をするならば「銃弾」よりは「カード」を入れて「전부 알아맞히기를 노리는 건, 뒤집어보면 카드를 전부 못맞히는 리스크와 인접해있다」と翻訳するか、または原文をそのまま直訳すると「銃弾」と「カード」両方の意味を込められる。

⑪

「仰げば尊し 歌詞」

「석별의 정」

「仰げば尊し」の歌の歌詞を韓国版の「仰げば尊し」に該当する歌詞で入れ替えたものである。根本が同じ歌なので入れ替えても問題ない。しかし、日本語の歌詞を翻訳するのがより自然ではないだろうかと思う。登場人物、地名などが完全に韓国式でローカライズされたなら歌詞を韓国版に入れ替えても自然であると感じるが、地名、登場人物などがローカライズされていないのに歌詞だけがローカライズされているのは不自然過ぎると思うからである。韓国を背景にした漫画が日本に輸入されたと仮定して、地名、登場人物が日本式にローカライズされていない状態にもかかわらず、学園で君が代を歌っていると考えたとだれでも不自然だと思うはずだ。

⑫

「私の造った私の塔から初めて人が飛び降りる」

「내가 만든 탑에서 처음으로 사람이 뛰어내리는구나」

「私の」が省略されている。

⑬

「また巻き込まれるのか私は…」

「또 휘말리는건가, 난…」

3.4.の①と同じ形式である。「난 또 휘말리는건가…?」と翻訳するのが自然である。

⑭

「一よろしいですか?」

「一말씀 좀 해도 될까요?」

「よろしいですか」が「おっしゃってもいいですか?」と訳されている。議論をしている中で発言権を得るために了解を得ている場面で自分自身に尊敬語を使う変な翻訳になっている。韓国語でも了解を得る場面でよく使う言葉である「申し上げる」を用いて「말씀 좀 올려도 될까요?」と訳するか「一言」を用いて「한 말씀 좀 해도 될까요?」「한 마디 해도 될까요?」と翻訳するのが自然である。

⑮

「しかもその内1回は勝利をモノにした」

「네 나름의 이치가 있다는 건 알겠어」

翻訳文は「あんたなりの理致があることは分かった」と訳されており文章全体が誤訳である。前の原文は「あんたは私の求めに従ってリスクも省みず自らの意志で二度の大博打に挑み…」であって後の文が意識である可能性も低い。前にチャプターで同じ翻訳文があることを考えると翻訳作業中の誤入力の可能性が高い。「그중에 한번은 승리를 손에 넣었다」と翻訳するのが正しい。

3.5. 人称語の場合

①

「鈴木さん」

「스즈이군」

日本語版では「一さん」付けだが韓国語版では「一君」付けになっていて人称語が変化している。

韓国ではクラスメイトは同じ年齢の人々しかないのでクラスメイトに対して「一さん」と呼ぶ場合はないから「一君」と訳したと思う。しかし「一君」もまたクラスメイトの間で使うことはないので、変更をするならばむしろ「스즈이」のように省略する方が自然であると思う。

これ以後も登場人物の人称語の変更や省略は多数起こる。ただし人称語を全部省略すると登場人物の個性がなくなることもあるので、原文をどこまで生かすべきかどうかはまだ考える余地があると思う。

②

「芽亜里ちゃんの負けだ」

「사오토메가 졌다」

「ちゃん」が省略された。また日本語では名前（下の名前）だが韓国語訳では名字（上の名前）として訳されており誤訳に思われる。

人称語の場合、日本語の「ちゃん」は韓国語訳で主に「양」と訳されるが、上記の「さん」「君」のように変更されたり、省略される場合が多い。以後も人称語の変更は多数あるが上記の例文と同じ形なので具体例は省略する。

3.6. 役割語の場合

- ①
「殺して差し上げます」
「죽여드리지」
意味に間違いはないが敬語がため口になっている。また話し手の登場人物が普段「気にしておりませんわ」などのお嬢様っぽい話し方をするキャラクターだということを考えると「죽여드리지요」と翻訳の方が自然である。
- ②
「やる気ねーのかお前らッ」
「너희는 의욕도 없나?!」
意味に問題はないが、原文に比べて翻訳文は一般化されている。話し手の登場人物のキャラクターを考えると「너희는 의욕도 없나?!」「너희는 할 생각도 없나?!」などが自然である。
- ③
「どうしてかしら？」
「왜~?」
「どうしてかしら？」が「どうして?」「なぜ?」「何で?」と訳されている。誤訳と見るには曖昧な訳ではあるが話し手のキャラクターを考えて誤訳であると判断した。「왜일까?」「어제서일까?」と翻訳の方が自然である。
- ④
「引き分け以外なら何でも良かったんですよ」
「무승부만 아니면 뭐라도 상관없었는데?」
意味は問題ないが敬語がため口で訳されている。話し手のキャラクターは「何を聞いていらっしゃるのですか?」のように常に敬語を使うキャラクターなので「무승부만 아니라면 어떻게 되든 상관 없었어요」「무승부만 아니라면 뭐든지 괜찮았어요」と翻訳するのが自然である。
- ⑤
「生徒会長から見放されて蛇喰夢子についたのか」
「학생회장에게 버림받고 자바미 유메코 쪽에 붙은거니?」
意味は問題ない。しかし、韓国語で語尾が「~니」終わる場合、その文は優しくて親切的なイメージを持つ。話し手の普段の話し方を見ると「この学園に僭越などという概念はない」「ギャンブルは対等な物を賭けてこそなりたつ分をわけまえろ家畜が!」「諦めろお前には王道を往く資格はない」などと優しくて親切的なイメージとは遠いキャラクターだ。故に「학생회장에게 버림받고 자바미 유메코 쪽에 붙은거니?」「학생회장에게 버림받고 자바미 유메코 쪽에 붙은건가?」と翻訳するのが話し手のキャラクターを保ちながら自然である。
- ⑥
「遠慮なく言ってちょうだい」
「기탄없이 말해봐」
「言ってちょうだい」が「言ってみろ」と訳されている。話し手は③と同一人物で話し方が変わった翻訳である。原文の「ちょうだい」を生かして「기탄없이 말해주렴」「기탄없이 말해줘」と翻訳するのが自然である。
- ⑦
「さてどうしましょうね」
「자, 이제 어떻게 하지?」
敬語がため口で翻訳されている。常に敬語を使う登場人物なので「자, 이제 어떻게 할까요?」「자, 이제 어떻게 하죠?」と敬語で翻訳するのがよいだろう。
- ⑧
「私には真似できません」
「난 흉내도 못내겠다」
敬語がため口で訳されている。独り言ならば問題ないが、相手との会話をしている場面であり常に敬語を使うキャラクターなので「저로서는 흉내도 못내겠네요」と翻訳するのが自然である。
- ⑨
「良心の呵責を覚えるのか?」
「양심의 가책을 느끼니?」
⑤と同じ形式である。話し手も同じであり、「양심의 가책을 느끼니?」「양심의 가책을 느끼고 있나?」と翻訳するのが自然である。

3.7. 感動詞の場合

①

「やった!」

「이겼다!」

「やった」が「勝った」になっている。直訳をするならば「해냈다」、意識をするならば「좋았어!」などが自然である。「勝った」も意識であるとも見られるが「やった」の後すぐ「私の勝ち」と勝利を表現しているので「勝った」と表現すると表現が重複することになってしまう。

②

「どうも～」

「방가 방가～」

「どうも」が「こんにちは」などの挨拶の意味を持つ「방가」と訳されている。意味としては誤訳ではないが、「방가」は1990年代後半から2000年初までに流行った流行語だった。今現在ではほとんど使われていない言葉であるので現在の翻訳に使うには少々問題があると判断した。すでに述べたが流行語を用いて翻訳するのは抑制するべきであると思う。この場面では「안녕하세요」「네～」などの意識が自然であると思う。

3.8. 副詞の場合

①

「遠慮なく言ってちょうだい」

「기탄없이 말해봐」

「遠慮なく言ってちょうだい」が「忌憚なく言ってみろ」と訳されている。「遠慮なく」と「忌憚なく」は同一の意味であるが「忌憚なく」よりは日常的に使われる「遠慮なく」を直訳した「사양 하지 말고」を用いて「사양치 말고 말해봐」「사양 하지 말고 말해봐」「사양 말고 말해봐」と翻訳するのが読む人にとってなじみがある。

②

「じっくり観察してあげる」

「천천히 관찰 해주겠어」

「じっくり」が「ゆっくり」と訳されている。「찬찬히」の誤字に見える。

③

「こんな素敵な道具を何故所有されていたのです?」

「이런 멋진 도구는 어떻게 소유하게 되신건가요?」

「何故」が「どう」と訳されている。原文は道具をなんで持っていたのかを聞いているもので、どうやって手に入れたかを聞いているのではないので誤訳だと判断した。「이런 멋진 도구는 왜 소유하고 계신건가요?」と翻訳するのが自然である。

④

「どいつもこいつもふざけやがって」

「개나 소나 웃기고 앉아있어」

「どいつもこいつも」が「誰でも」を意味する慣用句「개나 소나」と訳されている。「이 녀석이나 저 녀석이나 웃기고 앉아있어」と翻訳するのが自然である。

⑤

「これはまるで強者の笑みではないか」

「이건 영락없는 강자의 미소잖아?」

「まるで」が「紛れもない」「間違いない」と訳されている。原文は、まだ確信がないが強者のように見えるという感じのセリフであるが、翻訳文は強者であると確信をしているセリフとして訳されている。「이건 마치 강자의 미소잖아?」「이건 마치 자기가 강자 같은 미소잖아?」などと翻訳するのが自然である。

⑥

「なァーに神妙にしてんですか」

「뭐~얼 그렇게 심각하게 굴어요?」

「神妙に」が「深刻に」と訳されている。ギャンブルの結果、地位も金も全部失った登場人物の状況を考えて「深刻に」と意識をしたと思われる。しかし該当する登場人物は「人生ですら俺の手には残っていない。」のように、意欲もなく、相手の言いなりになっている状態なので「深刻に」よりは「素直に」を用いて「뭐~얼 그렇게 순순히 굴복해요?」と翻訳するのが自然である。

⑦

「文字通り四六時中」

「말 그대로 하루 24시간」

「四六時中」が「24時間」と訳されている。

「24時間」だけでも意味は通じるので問題はない。しかし、「ずっと」を意味する「내내」を付け加えるのがより自然になる。したがって、「말 그대로 24시간 내내」と翻訳するか、「一日中」を用いて「말 그대로 하루 종일」「말 그대로 온종일」と翻訳することもできる。

⑧

「絶対に勝つためには絶対に負ける者を用意してやればいい」

「절대적으로 이기려면, 절대적으로 지는 사람을 준비해주면 되니까」

「絶対に」が「絶対的に」と訳されている。すでに述べたように、間違っている翻訳ではないが不自然な翻訳とは言えるものである。「반드시 이기려면, 반드시 지는 사람을 준비해주면 되니까」と翻訳するのが自然である。

3.9. 慣用句の場合

①

「高みの見物といかせてもらうわ」

「고고하게 구경이나 할게」

「高みの見物」が「孤高に」または「高高に」と訳されている。翻訳文に漢字が併記されていないので「孤高」と「高高」のどちらも可能性がある。韓国語では同音異義語なので漢字を併記して紛れないようにするべきだと思う。あるいは漢語を韓国語にして「초연하게 구경이나 할게」「높은 곳에서 구경이나 할게」と翻訳することもできる。しかし最も自然な翻訳は慣用句を生かして「강 건너 불 구경이나 할게」と翻訳することではないだろうか。

②

「槍が降るね今日は」

「하늘에서 창 쏟아지겠네, 오늘은」

原文を直訳した。意外さをあらわす慣用句であるが直訳すると日本語を知らない人が読んだときに理解できない文になる。したがって同じ意味を

持っている慣用句を用いて「내일은 해가 서쪽에 서 뜨겠네」と翻訳するのが自然である。

4. 含意と今後の課題

以上、漫画『賭ケグルイ』の韓国語訳版から不自然な翻訳や誤訳を抽出し、より自然な翻訳を提案してみた。その結果、対象となる表現は、名詞の場合がもっとも多く、次いで、文脈・動詞に不自然さが見られた。

まず、名詞の場合では、日本語では日常的に使われる単語が韓国語では日常的に使われていない単語であることによって不自然に感じる表現が多く見られた。日本語と韓国語は同じ漢字文化圏に属している分、漢語が互いに対応することが多い。しかし、それらが必ず自然に対応することもないので、漢字を機械的に翻訳するよりは対応する韓国語で純化して翻訳するか、意識をすることで不自然さを減らせるものとする。また、流行語を用いて翻訳することも抑制するべきだろう。そのことばが流行っている時点では自然に感じるかもしれないが、流行はいずれ終わる。あるいは、龍恋が多少長く続いたとしても流行語が元の形や用法を守るとも言えない。特に子音のみ、母音のみで表現ができるネットスラングでは、その形の変化がより目立つので注意する必要があるだろう。また、名詞においては、単純な誤訳が最も多かったことも指摘できる。長期間の翻訳作業による疲労が原因である可能性もある。

動詞の場合では、あえて意識することによって不自然になる場合が多かった。特に「誘う」と「招待する」、「譲渡する」と「譲歩する」のように意味の上では通じるが使われる状況が違う単語による誤訳が多数見られた。意識するのは確かに自然な翻訳文を作るときに必要なであるが、単語が使われる場面を正確に捉える必要がある。また、動詞の活用形が多い分、「試されている」「시험 하고 있다」のようにひらがなを見間違えて誤訳が生じたことが多かった。名詞の単純な誤訳と同じく疲労が原因なのだろう。翻訳者に適切に休みをとることで誤訳を減らせるだろう。

形容詞の場合は動詞の場合と似ている。例文

として挙げた3文は誤訳と見るほどではないが、場面を考えると不自然になる。単語が使われる場面を考慮した上での翻訳をする必要がある。

文脈の場合では「強いね、相変わらず」のように日本語と韓国語の語順の違いによる不自然な表現が目立った。日本語と韓国語はほとんどの場合、単語を入れ替えるだけでも意味の上では問題なく通じる文になるので、このような語順の間違いはアマチュア翻訳でよく見られる。プロ翻訳でもまれに見られる問題ではあるが、ただ機械的に翻訳するのではなくもう少し念を入れて翻訳することで減らせる問題であろう。

人称語の場合は、個人的な見解ではあるが、日韓翻訳でもっとも困難な点ではないかと思う。例文として挙げたのは2文だけだが、人称語のケースをすべてとりあげれば、数の上ではおそらく最も多くなっただろう。「-さん」が「-君」または「-ちゃん」になったり、その逆もある。あるいは省略もされている。人称語をどう翻訳するかは翻訳家によって異なるが、「-さん」と「-君」はそのまま直訳をして、「-ちゃん」は「-양(嬢)」と翻訳するのが一般的である。また、漫画の場合は「-さん」以外は全部省略をしても不自然ではないと考える²⁾。なお、「-君」「-양」は中年以上の登場人物が若い登場人物に対して使う場合を除いて自然に感じる場合はない。友達同士の関係で「-君」「-양」と呼ぶことは不自然である。

役割語の場合では、登場人物のキャラクターが崩れかねない誤訳が多かった。常に敬語を使う、いわば『敬語キャラクター』がいきなりため口を言い出すとか、傲慢な話し方でものを言うキャラクターが優しくて親切な話し方をすることがあった。漫画では絵が理解を助けるため、人物の同定に苦しむことはないだろうが、小説などで登場人物の話し方が変わってしまうと、今話している人物は誰なのか迷う可能性が高いので注意する必要がある。

感動詞と副詞の場合は、名詞の場合と同じである。普段使っていない漢語などを純化して翻訳する必要がある。

慣用句の場合は、原語の国の文化と翻訳語の

国の両国の文化を深く学び理解する必要がある。ことわざの翻訳も同様である。慣用句やことわざの特性上、直訳すると意味不明になる場合が多いので原語の慣用句やことわざに対応する慣用句やことわざがあるならば対応するもので入れ換えるのが最善である。なければ最大限元の意味が伝えられるように意識をするしかない。

本研究は一つの作品だけを用いて不自然な表現や誤訳を抽出したものであり、日韓の十全な対照研究というわけではない。作品の翻訳家の研究に近いとも言えるかもしれない。しかし、一つの作品をとりあげただけだとしても、漫画作品の翻訳が抱える問題点の理解には役に立つはずである。本研究から得られた含意は以下のとおりである。

- 1) 自然な翻訳のためには直訳と意識を適切に使う必要がある。直訳は原文の感じを生かして意味もゆがまずに伝えられるが、文章が固くなり登場人物のキャラクターが損傷する可能性も高くなる。
- 2) 日本語では日常的な単語(漢語)が韓国語では日常的ではないことも少なくないので純化するか、他に対応する単語を用いる必要がある。
- 3) 意識は最も自然に翻訳ができて読み手にとって親近感を与えることができる。しかし、翻訳によって原文とはまったく違う文章になる可能性があり、作者の意図とは違う場面になってしまうおそれがある。

また、日韓翻訳において人称語の変化をどう自然に翻訳しながら原文の登場人物のキャラクターを守りつつ翻訳するのは今後の課題である。

今回の研究では翻訳文から不自然な表現や誤訳を抽出し、より自然な翻訳を提案した。いつか日本の出版物が韓国語で翻訳されても多くの人が文章の表現に拒否感を感じずに読むことができるようになることを期待する。

注

- 1) 漫画『賭ケグルイ』の舞台は未来社会の指導者になる政財界の有力者の子女が通う学園である。そこでは、学業成績よりは駆け引きや読心術、勝負強さなどが評価され、そ

それぞれの能力を育てるためにギャンブルが奨励される。

- 2) この点に関しては木田 (2019) でも言及されている。二人称は韓国語翻訳版でも日本語原作と対応する特徴的な呼ばれ方をされていることが多いが、「苗字+くん」「名前+ちゃん」「名前+くん」は、名前だけで翻訳されているという。韓国語では「くん」や「ちゃん」を使用せず、苗字だけで呼ぶことも一般的でないからである。そのため、漫画ではこれらの接尾辞をすべて省いて訳すこともできる。しかし、小説では難しいだろう。漫画では絵が理解を助けるが小説は字のみで理解をしなければならないので、誰が誰なのか分からなくなる可能性が高い。

付記

本稿は、別府大学文学部に提出した2021年度卒業論文「日韓翻訳研究：韓国語翻訳版に現れる不自然な表現について」（指導教員：内山和也教

授）を再編集したものである。

参考文献

- 今井洋子 (2009) 「翻訳書に現れた誤訳による日韓対照言語研究の試み：日本語教育への提言」, 『京都産業大学論集』40, pp.1-14, 京都産業大学.
- 木田和果奈 (2019) 「日本語原作の漫画と韓国語翻訳版における役割語対照：両言語の人称代名詞に焦点を当てて」, 『コミュニケーション文化』13, pp.125-157, 跡見学園女子大学.
- 河本ほむら・尚村透 (2014-2020) 『賭ケグルイ』1-13, スクウェアエニックス.
- ・—— (2016-2021) 『카케구루이』1-13, 장지연, 학산문화사.
- “국립국어원 표준국어대사전”, <<https://stdict.korean.go.kr/main/main.do>>2022年1月16日アクセス.
- (2022年2月20日受付)

